

第 400 回静岡エフエム放送番組審議会議事録

1. 日 時 令和 6 年 4 月 9 日 (火) 11:00～13:00
2. 場 所 静岡エフエム放送本社会議室
3. 番組聴取講評 [番組名] K-MIX40th ANNIVERSARY SPECIAL PROGRAM 「私と、K-MIX」
[放送日時] 令和 6 年 3 月 20 日(水) 11:30～14:55
[出演者] kainatsu 鈴木愛実

4. 出席者 [委員] 委員長 木宮敬信 副委員長 角田哲康
委員 服部乃利子 委員 加藤裕治
委員 小野晃司 委員 土屋維子
[会社] 代表取締役社長 井熊正浩
取締役放送事業本部長兼編成制作部長 杉山啓充
編成制作部専任部長 鈴木秀明
編成制作部担当部長 寺田和史

5. 事務局報告 ○ 新年度の K-MIX の目標と人事、ラジオ業界の現状を報告

6. 番組審議

[番組名] K-MIX40th ANNIVERSARY
SPECIAL PROGRAM
「私と、K-MIX」

[放送日時] 令和 6 年 3 月 20 日(水) 11:30～14:55

[出演者] kainatsu 鈴木愛実

[番組内容] K-MIX 40 周年となった 2023 年度の最後を飾る特別番組。
K-MIX 開局の約 5 か月後に誕生した kainatsu、そして K-MIX アナウンサー・鈴木愛実の二人が、K-MIX 40 年の歩みを振り返る。
番組では、K-MIX 40 年の歴史を振り返る企画、長年 K-MIX を担当してきたパーソナリティからのメッセージ、いつも K-MIX を支えていただいている聴取者のみなさんへの感謝の気持ちを込めたプレゼント企画を実施。メッセージテーマは、「私と、K-MIX」とし、聴取者から K-MIX にまつわる思い出を教えてもらう。

[聴取・合評での主な意見]

角田副委員長

40年の歴史を約3時間30分にまとめることは大変だっただろうと十分に感じる内容だった。聴取者に支えられた40年という言葉も出て、その点は共感するし、それ以前に、ラジオを作る人はラジオが好きなのだと思えて痛感した。そして、音の与える影響はとて大きいと思う。また、番組スタッフのまとまりを感じた番組だった。パーソナリティの2人の声質が少し似ていることもあり、色々バランスをとってみると良いと感じたり、番組内のK-MIX 40年に関するクイズに対しても、その頃の出来事を入れると良いかなとも感じたが、全体的には、懐かしく聴くことができた。

服部委員

実際の放送も聴いていたが、聴取者からのメッセージは、心に響くものが多く、聴取者が番組を楽しみにしていたことが感じられた。パーソナリティ2人の声は確かに似ている所もあるが、明るい雰囲気オープニングトークから3時間30分間最後まで、2人が華やかなテンションを保っていて、特別な番組であることがしっかり伝わり大変良かった。40年のクイズは、社会情勢や静岡県が出来事等や災害時等に重要視されるラジオの役割などが入ると、より一層心に響く内容になったと思う。しかしながら、一聴取者としてもK-MIX 40年間の歩みがわかる大変楽しい番組として聴くことができた。

加藤委員

kainatsu、鈴木愛実共に、冒頭からテンションが高く、今日の放送が「特別である」ということが、十分に伝わってきた。番組も、クイズ部分で、K-MIXの歴史とkainatsuの歴史を絡めることでパーソナリティを活かしており、大変良く練られた構成だった。パーソナリティのトークも、とてもよくマッチしていて、至る所で2人のトークの反応の良さが見られた。また、聴取者からのメッセージも心にしみる良いものも多かったので、場合によっては、もっともっと、K-MIX愛に凝り固まった番組内容にシフトしても良かったのではないかとも思った。全体的に、大変楽しく聴くことができた。

小野委員

クイズが5年刻みでK-MIXの歴史を振り返る物だったので、わかりやすく聴くことができた。その頃、世の中では・・・という内容があるとわかりやすかったと思う。K-MIXの40年はラジオと世の中の関わりの変遷でもあるので、変わらずに大切にしてきたこと、変えたところは、どのように変えてきたのかを番組内に散りばめられていても良かったと思う。パーソナリティ2人の声は似ている所もあるが、世代が違うことによるズレを上手く使っていたので、区別はついてた。放送された音楽にもきちんと理由があり、全体的に楽しく聴くことができた。

土屋委員

番組の登場人物の中に、K-MIX 40年を最初から今まで知っている人は誰もいない。しかし、聴取者の中には、40年聴いている方もいるはず。このギャップを埋めるために、40年、K-MIXの関わったスタッフや、OB、OGのスタッフに登場してもらおうということも考えられるのではないか。内側から、歴史を語ってもらおうという内容でも良かったのではないだろうか、そうすれば、聴取者の熱い思いと制作側の思いがバランスの取れたものになったのかもしれないと感じた。特別番組はどこに重点を置くかが難しいと改めて思った。

木宮委員長

声・音楽・番組のジングルは変わらない、年を取らない。同じ声で、同じことを語られると、本当にその時代に戻ることができる。これは、ラジオの良さだと再確認することができた。クイズは、まとめて出題する方法を取っていたが、例えば、かつて使用されていたジングルが流れた時に、その時代の問題を出題し、答えを出す等、番組内に散りばめてみる方法もあると思われる。次回は、公開で、何十年聴き続けてくれた聴取者を目の前にしたり、K-MIXに関わった人々がちょっとずつ登場すると別の楽しみ方もできるのではないだろうか。この番組は、準備に時間がかかり、気合の入った構成で、皆が自分のたどってきた道を懐かしく感じ取ることができたと思う。

会社サイド

今回の特別番組は、通常の特別番組と比べても高い聴取傾向であり、通常、同時間に放送している番組よりも瞬間的には2割ほど高い数字をマークした。通常の振り返り特番とは違い、今回は、長年の聴取者にパーソナリティが教えてもらおうという逆転の発想で番組を構成してみました。ラジオが本当に好きで、K-MIXの初期より知る知る聴取者には喜んでいただけたのではないかと感じております。
今回いただきましたご意見を参考として、
次回の特別番組の際には、検討してみたいと思います。

以上

次回開催日 令和6年5月7日(火) 11:00~13:00 を予定

番組審議会委員長
木 宮 敬 信